



関東・東北豪雨を受けて

金 尾 健 司*

皆様には、日頃から水管理・国土保全局の所管行政の推進にあたりまして、ご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、口永良部島や箱根山の火山噴火や、台風による浸水被害など、全国各地で自然災害が相次いだ1年でした。

中でも、昨年9月に発生した関東・東北豪雨では、東日本を中心に記録的な大雨となり、利根川水系鬼怒川等の19河川において堤防が決壊し、67河川で氾濫等の被害が発生しました。特に鬼怒川流域では多くの水位観測所で氾濫危険水位を超過し、常総市三坂町で鬼怒川左岸の堤防が延長約200mにわたり決壊する等、越水や堤防決壊等により、常総市の約1/3の面積に相当する約40km²が浸水し、住家被害が約8,800棟にのぼる甚大な被害が生じました。

今回の水害を受け、水管理・国土保全局としては3点の課題があると捉えています。一つ目は「堤防決壊に伴う氾濫流による家屋の倒壊・流失」、二つ目は「地方公共団体による避難判断、広域避難」、三つ目は「避難の遅れと長時間・広範囲の浸水による多数の孤立者の発生」です。今回の水害は鬼怒川特有のものではなく、全国の主要な河川で同様に発生する可能性があるため、できるだけ早く対策を講じる必要があります。

そのような状況を踏まえ、昨年10月には、社会資本整備審議会に対して「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方」について諮問し、12月に答申「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について ～社会意識の変革による「水防災意識社会」の再構築に向けて～」を頂きました。対策の基本方針として、「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へと意識を改革し、洪水による氾濫が発生することを前提として、社会全体で常にこれに備える「水防災意識社会」を再構築する必要があることなどが示されています。これを踏まえ、国土交通省においては、新たに「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、平成32年度を目途に、国・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置し、減災の目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進します。これにより、水害リスクに関する知識と心構えを共有し、氾濫した場合でも被害の軽減を図るための、避難や水防等の事前の計画・体制、施設による対応が備えられた社会を目指していきます。

* 国土交通省 水管理・国土保全局長

甚大な被害が発生した鬼怒川下流域においては、全国に先駆けて、国、茨城県、常総市など7市町が主体となり、ハード・ソフトが一体となった緊急的な治水対策を、「鬼怒川緊急対策プロジェクト」として実施しております。本プロジェクトにより、鬼怒川下流域が水害に強い地域になるよう、地方公共団体や地域の皆様のご協力をいただきながら取り組んでまいります。今後、この取組を他の河川のモデルとし、全国に展開していくこととしています。

一方、この水害においては、これまでの着実な河川整備による治水効果も確認されました。鬼怒川上流の川治ダム、川俣ダム、五十里ダム、湯西川ダムでは、降雨や下流の河川水位の状況を見ながら、できる限り洪水を貯める操作を行い、約1億 m^3 の洪水を貯留しました。これにより、決壊地点の水位を約25cm低下させ、氾濫水量を概ね2/3(約5,300万 m^3 から約3,400万 m^3)、氾濫面積を概ね2/3(約60 km^2 から約40 km^2)、浸水深3m以上の面積を概ね1/3(約8.5 km^2 から約3.0 km^2)に減少させたものと試算されます。このように治水対策において、ダムが重要な役割を担っていることは言うまでもありません。ダムによる洪水調節は、洪水の一部を貯めることにより、その下流域において洪水のピーク時の流量を減らすとともに、氾濫した場合においては氾濫水量を低減し、浸水範囲や浸水深を減少させるなどの効果も期待されます。

このように、大雨の発生頻度の増加や今後の気候変動に対応するためにも、平成28年度は、直轄・水資源機構・補助合わせて全国で71のダム建設事業を実施しています。今年度は、現在試験湛水中の津軽ダムが完成するとともに、ハッ場ダムが6月から本体コンクリート打設を開始する予定としています。また、新桂沢ダム、横瀬川ダム、立野ダム、小石原川ダムが本体工事に着手する予定です。

また、ダムサイト適地が減少している中、コスト、工期、環境負荷等を抑制しつつ、治水機能の向上およびその維持を図るため、既存ストックを有効活用した「ダム再生」も重点的に進めていきます。現在、「ダム再生」として、全国で20事業程度を実施しています。その中でも、長安口ダムの改造工事が本格化しており、既設の堤体を切削しているところです。

今後とも、ダムの整備・管理・再生、活用等により、地域の安全・安心の確保に努めてまいります。皆様方のご支援、ご協力を賜りますことを心よりお願い申し上げます。